

奈良県内唯一の連「大仏連」

笑顔で楽しむ正調

奈良県内唯一の阿波踊り連として徳島の伝統芸能の普及に努める「大仏連」(65人)。来年、結成10周年を迎えるとして、いやが心にもメンバーの意気は高まっている。

「ヤットサー、ヤットサー」。威勢のいい掛け声が響く奈良市内の舞妓会館。月2回の練習日に集まった約40人が、鉦や太鼓、笛に合わせて躍動感あふれる男踊りやしなやかな女踊りを見せる。

「笑顔がない。前の人に足を合わせて」と長尾弘弘さん(64)。鉦を奏でながら、連員の手さばきや足運びをチェックする。下は5歳から上は81歳のメンバーを束ねる連長だ。

2001年3月に発足した奈良県人会の阿波踊り同好会として、長尾連長を中心に10人足らずで練習をスタートさせた。この様子がテレビで取り上げられたのをきっかけに注目され、02年10月に大連が結成された。

「地域に元気を」「楽しく、元気に、はっぴい」がモットー。老人福祉施設「ポランテア」や地域の夏祭りなど、年間20回ほどの遠征や地域イベントに出陣。奈良県内でもその存在が知られるようになった。

昨年7月は平城宮跡会場であった平城遷都1300年祭の阿波踊りイベントに出陣。今年4月は、藤原鎌足を祭る談山神社(桜井市)の「春のけまり祭」で阿波踊りを奉納した。同じ日に東日本震災の復興祈願祭と桜井駅前商店街の活性化イベントにも参加。商店街を駅前へ駆けるリズムが流れ、街を徳島色に埋め尽くした。

大震災後から被災地訪問を模索しており、長尾連長は「また見通しは立っていないが、あちこち声を掛けて協力者を募っている。踊りたい人を近畿から全員連れて行きたいのつもりで実現させた」と力を込める。

関西からも元気を

り、笑顔で楽しむ正調阿波踊りが大仏連の踊り。地域と連員間の交流を最も大切にしており、和気あいあいとした家族的な雰囲気特徴だ。

「地域を元気にできるのが阿波踊り。踊った後にすぐ答えて返ってくる」と連員は口を揃える。老人福祉施設でのポランテア慰問では、お年寄りが涙を流して喜んでくれるため、やりがいを感じることも多いという。

05年から参加している徳島市の阿波踊りは、今年も12日に40人繰り出す。長尾連長は「阿波踊りの本場を目指すのは、高校球児が甲子園でプレーすることを夢見ると同じ。一度、あの感激と興奮を経験したら、毎年行かないことには夏は越せない」と人懐こい笑顔を見せた。

「阿波踊りの本場を目指すのは、高校球児が甲子園でプレーすることを夢見ると同じ。一度、あの感激と興奮を経験したら、毎年行かないことには夏は越せない」と人懐こい笑顔を見せた。



2011 阿波踊り

談山神社の春のけまり祭で阿波踊りを奉納する「大仏連」のメンバー。奈良県桜井市

古里忘れず地域に密着

談山神社の春のけまり祭は、東日本大震災後で各種行事の自粛ムードが広がっていた4月だった。けまり祭も阿波踊りも魂を鎮める行事。関西から日本を元気にしたいという気持ちから、阿波踊り奉納を思い切ってやった。大仏連の活動も、自分

たちの古里を忘れないで奈良県内の地域に密着しているところに意義がある。前向きな気持ちにさせる力を秘めた芸能が、徳島県で発達したのは県人の誇り。徳島の意気を奈良のいろんな場所で示し、活躍してほしい。

談山神社宮司の長岡千尋さん(58)＝美馬市出身、奈良県桜井市在住



徳島をアピールしたい

桜井市を邪馬台国のあった日本発祥の地として研究、情報発信する活動をしている。昨年10月に奈良市内で開催された「全国徳島県人会連合会」の総会に出席した時に、談山神社の長岡千尋宮司、長尾弘連長と話が弾み、談山神社の春のけまり祭で

大仏連が阿波踊り奉納をすることになった。大仏連の取り組みは、徳島県のイメージを高め観光と結び付けている実践活動。今後も互いに協力し合い、関西広域連合に参加していない奈良県内で徳島をアピールしていきたい。



NPO法人「やまとまほろば文化育成会」理事長の郷司英治さん(76)＝三好市出身、奈良県桜井市在住

県出身者、思いを語る